

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10)平成27年度:1.

健康行動理論から考察する禁煙継続困難事例

日野岡 蘭子

健康行動理論から考察する禁煙継続困難事例

旭川医科大学病院 ○日野岡蘭子

虚血肢治療において禁煙は絶対とも言えるべき項目である。喫煙を持続していた患者に介入した経過を報告する。

<事例>50台女性。Ⅱ型糖尿病。慢性閉塞性動脈硬化症Fontaine分類Ⅳ度。2013年左第5趾切断、動脈拡張、ステント留置術。2015年ステント留置部位狭窄のため再入院。再入院当日まで喫煙していた。

<方法>禁煙についての認識確認を中心に聞き取り及び意図的介入を行った。

<結果>2回目入院まで危機感を感じることで禁煙のプラス面を実感する機会が少なかったこ

とが行動変容に至らない要因であった。背景として障害児の療育とそれに伴う孤独感が考えられた。自信につながる自己効力感の情報源のひとつに周囲からの肯定的な働きかけがあり、それによって禁煙継続の意思につながることを自覚した。

<結論>禁煙を守らせるのではなく、何故できないかに焦点をあてた意図的介入により、自身が危機感を自覚することにつながった。しかし退院後の継続には肯定的な働きかけによる孤独感の払拭が必要である。